

高速電気信号処理技術に基づく適応制御光トランスポートネットワークの研究（三菱電機株式会社） 平成17年度採択評価結果

点数		合計点数	総合所見
技術評価	46	84	<p>分散フリースポンドの基本的なアイデアは、無線通信の世界では古くから使われている。しかし、光でも●●●●●によるデモンストレーションが先行したとはいえ、今後の構成可変光パス網の経済化手法の基盤技術と成り得ると思われる。</p> <p>その実現への技術ハードルは超高速 IC 技術など高く、非常に大きな目標を掲げた提案であり、実現すれば非常にインパクトが高いと思われる。また、構成可変光パス網の経済化は今後の社会インフラ構成の基盤であり、総合的システム高度化を含んだ提案は妥当と思われる。</p> <p>目標・研究内容については、もう少し細かく段階的に設定することが好ましい。</p> <p>事業化においては、提案者が多くの販売実績を有し、世界市場で一定のシェアを獲得している光通信事業において、「分散フリースポンド」、「MEMS 駆動●●●●●スイッチ」、「自律適応型ネットワーク制御モジュール」の3製品を販売する計画である。90年代後半には海底ケーブルシステムで●●●●●のシェアを確保、また、現在は国内 FTTH 向け光加入者装置においてトップシェアを確保、さらには世界の光デバイスの2003年市場シェアが●●●●●であるなど、優れた販売実績に基づいた確度の高い計画であり、一定の収益納付が期待される。</p>
事業化評価	38		

(注) 総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。